

# 登山とは、どんな競技？



テント（設営・撤収）、炊事、天気図・課題テスト、計画書、行動記録、読図技術  
：etc

山ガール、登山女子という言葉が定着し始めたのが2009年頃（もう15年前）。最近ではキャンプブームもあり、登山用品もカジュアルなものが増え、登山はだいぶ身近なものになってきました。山の魅力は登山、頂上からの景色だけでなく、キャンプや山ごはんなど多岐に渡り、楽しみ方も人それぞれです。

そんな魅力の多い登山ですが、登山部・山岳部の行う登山には、競技性も含まれません。では、競技となった場合にどのような順位付けをすると思いますか？

早く登って降りた学校？とかではなく、実は登山に関するいろいろなことを審査員が審査し、順位付けを行うという形です。

4人1チームを基本とし、審査項目は、登山能力（体力・歩行技術）、服装・装備、



山に登って降りて終わりではなく、開会式から閉会式までの間（大会前の準備（計画書）含む）、審査があります。その山の知識や救急に関する知識を確認する課題テストもあります。炊事（調理）では、コンロが正しく使えているか、衛生的な調理ができているかなど、審査項目に関する細目もたくさんあります（調理の出来上りの味は関係ありません）。そういった細目を多くクリアしてきた学校が上位になるといった感じですよ。

こういった部分を読むと面倒くさそうと感じるかもしれませんが、競技性があるからこそ得られるものもあります。計画を立て、実行し、そこで学んだことを次に生かす力や、**困難さを仲間と協力して乗り越える力**など「人間力」や「生きる力」と表される力は、登山を行えば身につきます。また、天気図も読めるようになります。山の地図も読めるようになります。個人的には、山の地図が読めるようになると、山の地形を予想しながら歩くことができ、その予想が当たると今までと違った楽しさを感じることできておススメです。そして何より、困難さを越えたときに見た頂上からの景色は、今まで感じたことの



ない感動を与えてくれることでしょう。

またクライミング競技も行っています。こちらが東京オリンピックの種目になり、以前より身近なものになりました。また登山は団体競技ですが、クライミングは個人競技です。大会では県内のクライミングジムに通っている高校生も参加しています。スタートからゴールまで指定されたホールドを利用し、登っていきます。技術は当然

必要ですが、**どう登るか考える予測能力（戦略性）**も大切です。練習すれば、それらが身についていくので、こちらの競技もおススメです。登れなかったルートが登れるようになったとき、**今まで以上の達成感、自己成長感が得られる**と思います。

現在、登山専門部に加盟する学校（登山部・山岳部がある県内の学校）は、松江北高校、松江工業高校、出雲高校の3校です。加盟校は少ないですが、少ないからこそ3校のつながりは強く、協力しながら大会運営などに当たっています。部員同士の交流も多く、仲が良いのが特徴です。登山やクライミングを身近に感じてもらうとともに、登山専門部も身近に感じてもらうとありがたいです。